

視察・研修報告書

研修者	原田真光
日時	令和6年10月8日(火) 13時30分～15時
場所	東京都文京区湯島4丁目7番10号 文京区教育センター内
テーマ	文京区青少年プラザ(b-lab)について
対応者 (講師)	文京区教育委員会 教育推進部 児童少年課 青少年係長 河邊 郷士 文京区青少年プラザ b-lab 館長 山本 晃史
概要	<p>1. 東京都文京区</p> <ul style="list-style-type: none">・23区の中央部近くに位置し面積は11.31km²・人口は234,348人(令和6年10月1日現在)・私立・公立を合わせて19の大学・短期大学がある・森鷗外・夏目漱石・樋口一葉・石川啄木など数々の文人と関わりのあるまち <p>2. 事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none">・b-lab(ビーラボ)は「文京区教育センター等建物基本プラン」に基づき、学校支援センターとしての機能を強化した文京区教育センターと、障害の早期発見・早期療養など乳幼児の発達を支援する文京福祉センター療養部門からなる複合施設の一つとして設置される・b-lab(ビーラボ)は、主に区内の中高生が自主的な活動を通じて自らの可能性を広げ、社会性を身につけた自立した大人へ成長を目指すために設置される、区内で初めての中高生専用施設「文京区青少年プラザ」の愛称(文京区役所ホームページより) <p>3. 事業の運営方針</p> <ul style="list-style-type: none">・b-lab ホームページ「過ごしたい“放課後”を自分で選ぼう」というキャッチフレーズ <p>(1) 「何かをやってみようかな」を応援する</p> <ul style="list-style-type: none">・中高生の自主的な活動を応援する <p>(2) 様々な人との関わりから社会性を育む</p> <ul style="list-style-type: none">・中高生が地域の人をはじめとする様々な人との関わりで、新たな人間関係構築と、見識を広げて社会性を身につける <p>(3) 地域の中の自分を自覚する</p> <ul style="list-style-type: none">・中高生が、地域の人との交流を通じて、社会参加のきっかけをつかむ場とする <ul style="list-style-type: none">・合言葉：自由な居場所、出会うきっかけ、主体的な挑戦ステージ、参加参画 <p>4. 施設の概要</p> <ul style="list-style-type: none">・文京区教育センター内の一画・開設日 年末年始を除き通年開館・開館時間 午前9時から午後9時まで(中学生は午後8時まで)・平成27年4月1日に開館

・中高生談話スペース

友達とのおしゃべりや自習などに使えるスペース



(画像は加工済)

・多目的スペース

料理やクラフトができる作業スペース



(画像は加工済)

・ホール

ダンスや演劇などの練習や発表ができるスペース



・音楽スタジオ

バンド演奏の練習等に利用。大小の2部屋



・プレイヤード(屋外)

バスケットリングを設置するなど簡単な運動ができるスペース



・その他

教育センターとの共用の自習や軽運動ができるスペース



・利用対象

主に区内在住・在学・在勤の中学生及び高校生の世代

・施設の利用方法

利用者登録を行い、入館カードを発行

入館管理はPC及びバーコードリーダーを使用

ホールや音楽スタジオは一般利用も可(中高生が利用する時間が始まる17時、18時まで)

5. 特色

・来館者数は年間延べ2万7,000～3万人(年度により変動有、中高生はおよそ半々)

・年間232本の企画のうち、48本が子ども達による自主企画

→企画にはフォーマットがあり、企画が初めての中高生でも始めやすい

・予算7,000万円全て市の単費

・b-labの場所は文京区の中でも東の端に近いところに位置しているため、特に中学生の利用者は近隣の2校が多い

・大学生や社会人になって間もない若い世代がスタッフとしてボランティアを行っている
→アルバイトではなく交通費のみの支給

- ・擬似的な部活動・サークル活動を行っている
- b-lab 内のメンバーで映画サークルやダンスサークルを子ども達自らが結成して運営（スタッフが補助も行う）
- ・フェスという年3回発表の場を設けている
 - ・ユース館長など子ども達から選出された子が運営会議等を行い、b-lab をこうしたい等意見を反映させる取り組みもある

6. 施設運営

- ・認定特定非営利活動法人 カタリバ(開館当初から)
- 公募型プロポーザル方式により3年委託

所感

視察に訪れた時間はまだ学校の授業が行われている時間だったので、子ども達の姿は少なかったが子ども達が普段から利用しているという雰囲気を端々から感じた。

音楽スタジオにはドラムやギター、ベース、シンセサイザーが常備されており、中高生は無料で利用できる。ホールには大きな鏡があり昨今のダンスブームも相まって利用者が多い。初めての場所に行くことは、心理的な負担がかかりやすい。このように子ども達にとって目玉となる設備があることで、ファーストステップが踏み出しやすと感じた。

またスタッフが常時15人と多いことも居心地の良い空間作りに一役を買っている。そのスタッフも大学生や若い社会人が10人程度いることも子ども達との距離を縮めやすいことへの要因になっていると思われる。

2階に設置したプレイヤードはバスケットコート半面の広さがあり、座席やちょっとしたステージに利用できそうな空間があったが、付近の住民への騒音対策のため、十分に活用できていないと開設後に気付いたとの説明があった。やはり、箱物は計画通りに行かないことが起きる様だ。

自主企画を増やすためには関わるスタッフ全員が常にアンテナを張っていることが重要だと語っていた。子ども達の中には積極的に自主企画を始める子もいるが、なかなか言い出しづらい、もしくは自分にできそうと思っていない子もいる。それでもスタッフや子ども同士の何気ない会話がきっかけに自主企画へと繋がったこともあり、そのためにはスタッフの意識向上が欠かせない。

b-lab は文京区の東に位置しており、利用者には偏りが見られるので異なる地域へ新たな施設の設置も検討しているとのことだった。その場合は、b-lab とは違ったコンセプトで運営をしたいとのことであった。

中高生の秘密基地、というのが子どもたちの心を掴んでいるのではと語っていたことが印象に残った。本市にも青少年の居場所としてユープレが開設されており、運営方法・利用対象者等違いがある。b-lab は子ども達がいなくても閑散とした雰囲気では無く、若いスタッフ同士で会議を重ねている姿が随所で見られた。無料で使える音楽スタジオという目玉があり、若いスタッフが多いので距離が近く、自主企画が生まれやすい土壌が整っている。目玉を作る、若いスタッフを増やすというのは大いに参考になるのではと感じた。施設から離れた場所の子どもは利用する割合が減るのは、交通網が発達した23区内にある文教区でも同様に起きている現象なので、本市でも東や南地域に新たな施設を設ける必要があるのではと思う。